

令和8年度 都内公立中高一貫教育校 英語スピーチコンテスト

8月21日（金）に立川国際中等教育学校で英語スピーチコンテストが開催されました。今年度は中学3年生の東山真優さんが参加しました。テーマは「How do you think artificial intelligence is changing the way students learn? Do you think these changes are mostly positive or negative? (AIが生徒の学びをどのように変えたと思うか。その変化はポジティブかネガティブか。)」です。東山さんはポジティブという立場を取り、AIが家庭学習や個人学習の質・方法をどのように変えたか、について話しました。また、AIに頼りすぎると失われてしまう「考える力」についても触れました。「私にとって『考える』とは色々なことに興味をもつこと。そしてそれによって世界を見る自らの視野を広げていくこと」と述べました。

テーマについて東山さんは「AIはよく議論になるテーマだと思います。意見が出尽くしている感じもあり、『自分の意見』を生み出すのが難しかったです。」と振り返りました。他校の参加者のスピーチに感銘を受け、「発音がきれいで英語が上手、というだけでなく、内容がとても良いと感じました。文章も工夫されていました。」とのこと。休憩時間には他校の参加者と和やかな交流をすることもできました。

東山さんはこのような発表会への参加が初めてです。勇気を出して挑戦しました。放課後や夏休み中にも何度も英語科を訪れ、練習を重ねました。当日の発表がこれまでで最も自信にあふれ、英語的な発音やアクセントにも気を配り、自分の主張を力強く伝える語りになりました。「昨日、家で大声で最後の練習をしたんです」と少し恥ずかしそうに教えてくれました。緊張を乗り越え、自分の最善を本番で披露できるのは素晴らしいことです。努力の成果が出て、嬉しい本番でした。

「不安だけどやってみた」、「頑張って乗り越えた」。そのような、自分で自分の成長を感じる瞬間が、生徒を本当に「いい顔」にしてくれます。その「いい顔」はAIが絶対に作れないもののひとつです。両国生、これからもどんどん「いい顔」を見せてください！

